神の母聖マリア

世界平和の日

福音朗読　ルカ 2・16-21

2025.1.1　11：00 ミサ
カトリック高円寺教会
主任司祭　高木健次神父

皆さん、明けましておめでとございます。（おめでとうございます。）

今日、わたしたちは新しい年を迎えて、全教会のつながりの中で、一人ひとり、また世界のすべての人の上に神様の平和を、マリア様の取り次ぎに委ねて恵みを願うごミサをともにお捧げしています。

今日は、冒頭にも申し上げましたように、神の母聖マリアの祭日であるとともに、カトリック教会にとっては「世界平和の日」にあたっています。教皇様は毎年メッセージ（注）をお出しになりますけれども、今年は特に「聖年」――25 年ごとにカトリック教会が神様のいつくしみを思い出し、信頼する――が開幕しておりますので、聖年に向けてこのようにおっしゃっています。

「天の御父が与えてくださったこの新しい年、希望を掲げる聖年の幕開けにあたりお伝えします。すべての人に、とりわけ自身の境遇に打ちひしがれ、自らの過ちに苛まれ、他者の裁きに押しつぶされ、もはや人生に光なく未来が描けずにいる人々にこそ、平和があるよう切に願っています」。

それぞれ、わたしたちはなんらかの問題を抱えながら人生を歩んでいるかもしれません。でも、新しい年にあたって、神様がともにおられることを思い出し、神とともにあることから来る力と、そしてほんとの平和をいただくように、一人ひとり神様の恵みに心を開きたいと思います。

ところで、今年の「世界平和の日」の教皇様のメッセージのテーマは「わたしたちの負い目をゆるしてください、あなたの平和をお与えください」ということになっています。それは両方ともミサの中で出て来るお祈りに基づいてます。「わたしたちの負い目をゆるしてください」というのは、言うまでもなく「主の祈り」の中の――現代日本語では「わたしたちの罪をおゆるしください」と言っ

てますけども、直訳すれば、その「罪」って訳されているのは「負い目」あるいは「負債」っていう言葉なんです――その「負い目」を赦してください。そして、「あなたの平和をお与えください」は平和の挨拶の前に司祭が祈ります――イエス様のことばを思い起こしながら――「『わたしの平和をあなたがたに与える』っていうイエス様のことばが実現しますように」っていうことにつながっていきます。

さて、聖年というのは、旧約聖書にも出てきて、人々が新たにもう一回人生をスタートすることができるように49年ごとに負債を免除するという規定が旧約聖書に出ている（レビ記25・8以下参照）。実際のそれが国として行われたかどうかは甚(はなは)だ不明らしいですけれども、しかし一つの理想が表されています。それに基づいてカトリック教会は50年ごと、でも最近はより多くの人がその恵みに与ることができるように25年ごとに、その「聖年」――ゆるしの秘跡と巡礼とそして愛の業を通して特別な恵みを神様からいただく――その聖年を過ごしているわけですけども、特にその中で教皇様がおっしゃるのは、まさに、わたしたちの「主の祈り」の「負債をおゆるしください。わたしたちもわたしたちに負債のある他(た)の人をゆるします」ということが実現するようにと訴えておられるわけです。

具体的には、国際社会の中で、特に国の間の貧富の格差の中で、債務によって国が外国に支配される、あるいは支配するというような状況が変わっていくようにということを訴えておられます。債務、債権によってその国を支配する、つまりお金を貸しているということが、結局返せないくらいの額になって、いろんな国そのものが支配下に置かれるっている状況は絶対良くないんだとおっしゃるわけです。

だから、その減免あるいは免除の運動を教皇様は進めたいとおっしゃるわけですけども、それは、国と国の間でつまりは債権が武器として使われている――債権っていうのは自分が貸している権利のことです――武器として使われている、でも他国を支配する武器として債権を使うのはやめてくださいというふうにおっしゃっているわけですけれども、それは個人の間でも言えることなんだというわけです。

神様からわたしたちはすべてを頂いているという感覚を忘れてしまうときに、立場が強い者は弱い者に対して何をしても良い――この場合で言うならば、貸

している者は借りている者に対して立場が強いので、何をしても良い――という考えになってしまうけれども、本当は、神様とのつながりを思い出すならば、わたしたちがすべて神様から頂いているのだから、他(ほか)の人に対しての債権を武器として、コントロールするために振りかざすということはできないはずなんだというわけです。個人の間でも、自分が特に人をゆるすっていうことにつながりますけども、あの人はわたしにひどいことをしたんだから、わたしは愛さない権利を持っている、あるいは、冷たい態度を取る、誰かを心から排除する権利を持っているんだというような、心の中で自分が持っていると思う債権を武器として使うということもこの聖年の恵みの中で放棄していかなければならないということなんだと思います。

特に現代においては、自分を不愉快な思いにさせた人は責任を取らなければならない、あるいは罰を受けるべきだっていうような考え方がとっても広がっているように思います。それはたとえ自分が直接何かの被害を受けたということではなくても、何かそれを目撃したとか、何か不愉快な思いにさせられたというようなことでその原因になる人を攻撃して止まないっていう雰囲気が非常にSNS の発達と共に広がっているように思います。でもそれはある意味では一人ひとりが自分が債権者なんだと、だからその権利を行使していいんだという考え方が暴走していると言ってもいいかもしれません。

でも、すべては神様から頂いているんだ、自分が本当にそれを他(た)の人に対しても、そして世界に対しても主張できる人はいないんだというところに立ち帰らなければ、まことの平和がない。その教皇様のメッセージが、一人ひとりの人との関係に、またひいては国と国との関係の中に、少しでも反映して実現していくことができるように祈りたいと思います。

メッセージの最後に教皇様はご自分のお祈りを載せておられるので、それを最後に朗読しますので、共に祈りたいと思います。

主よ、わたしたちの負い目をゆるしてください、
わたしたちも自分に負い目のある人をゆるします。
この互いにゆるし合う輪の中に、あなたの平和をお与えください。
心の武具を脱ぎ去った者たちに、
希望をもって兄弟姉妹の負い目をゆるそうとする者たちに、

あなたに負い目があることをすすんで告白する者たちに、
貧しい人の叫びに耳を閉ざすことのない者たちに、
あなただけが与えることのできる平和をお与えください。

わたしたちが心の武具を脱ぎ、そして神様だけが与えることができる平和に身を委ねていく、その歩みを続けることができますように、マリア様の取り次ぎのうちにこのごミサを通して恵みをいただきたいと思います。

（注）　2025 年「世界平和の日」教皇メッセージ（2025.1.1）
https://www.cbcj.catholic.jp/2024/12/26/31202/

ミサ説教はカトリック高円寺教会ホームページの「ミサ説教」のページにも掲載されています。
PC　http://www.koenji-catholic.jp/cgi-bin/wiki/wiki.cgi
携帯　http://www.koenji-catholic.jp/mobile/